

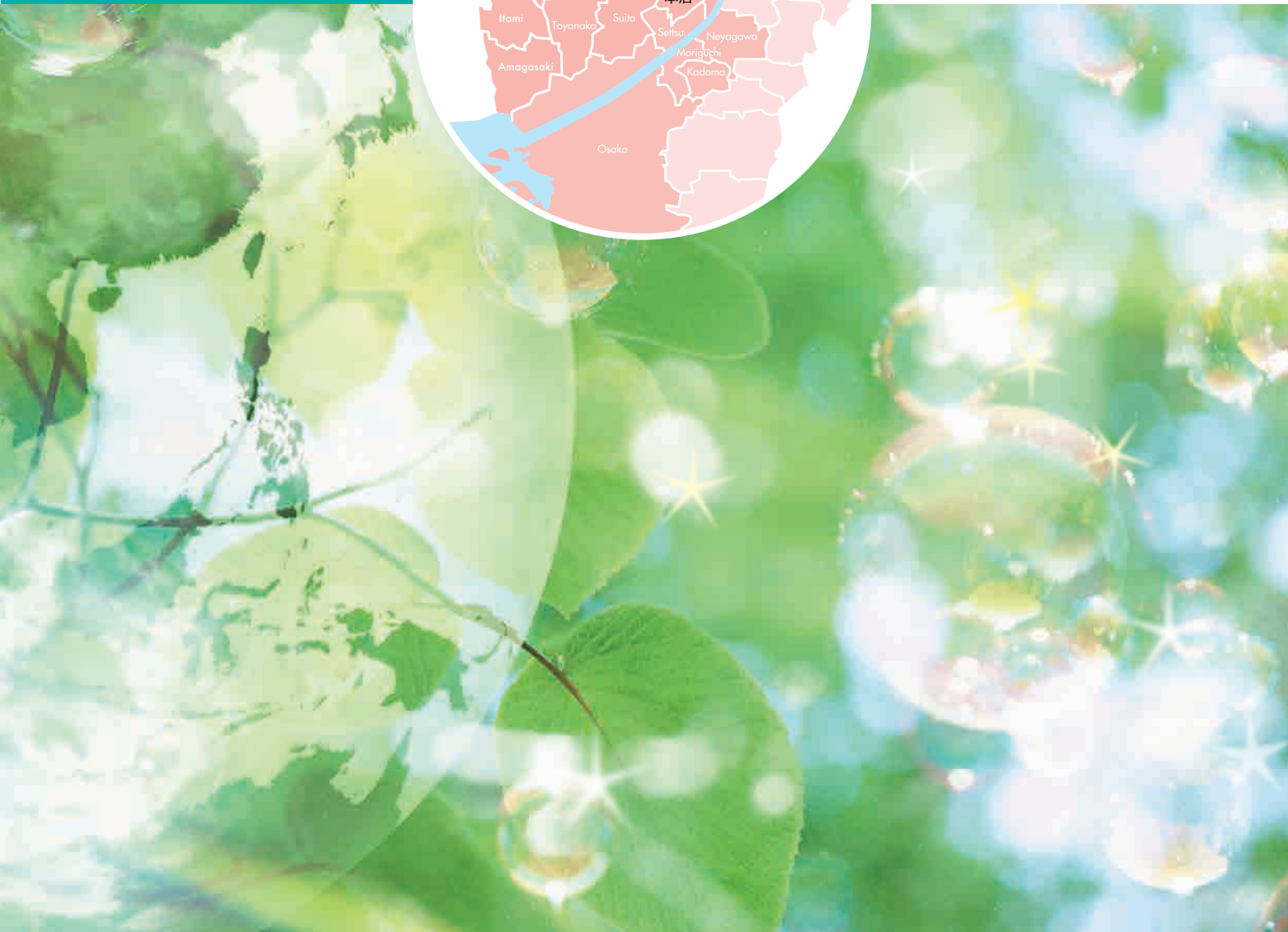
The Kita Osaka Shinkin Bank

北おおさか信用金庫

# 景況レポート

2026年1~3月期 No.49

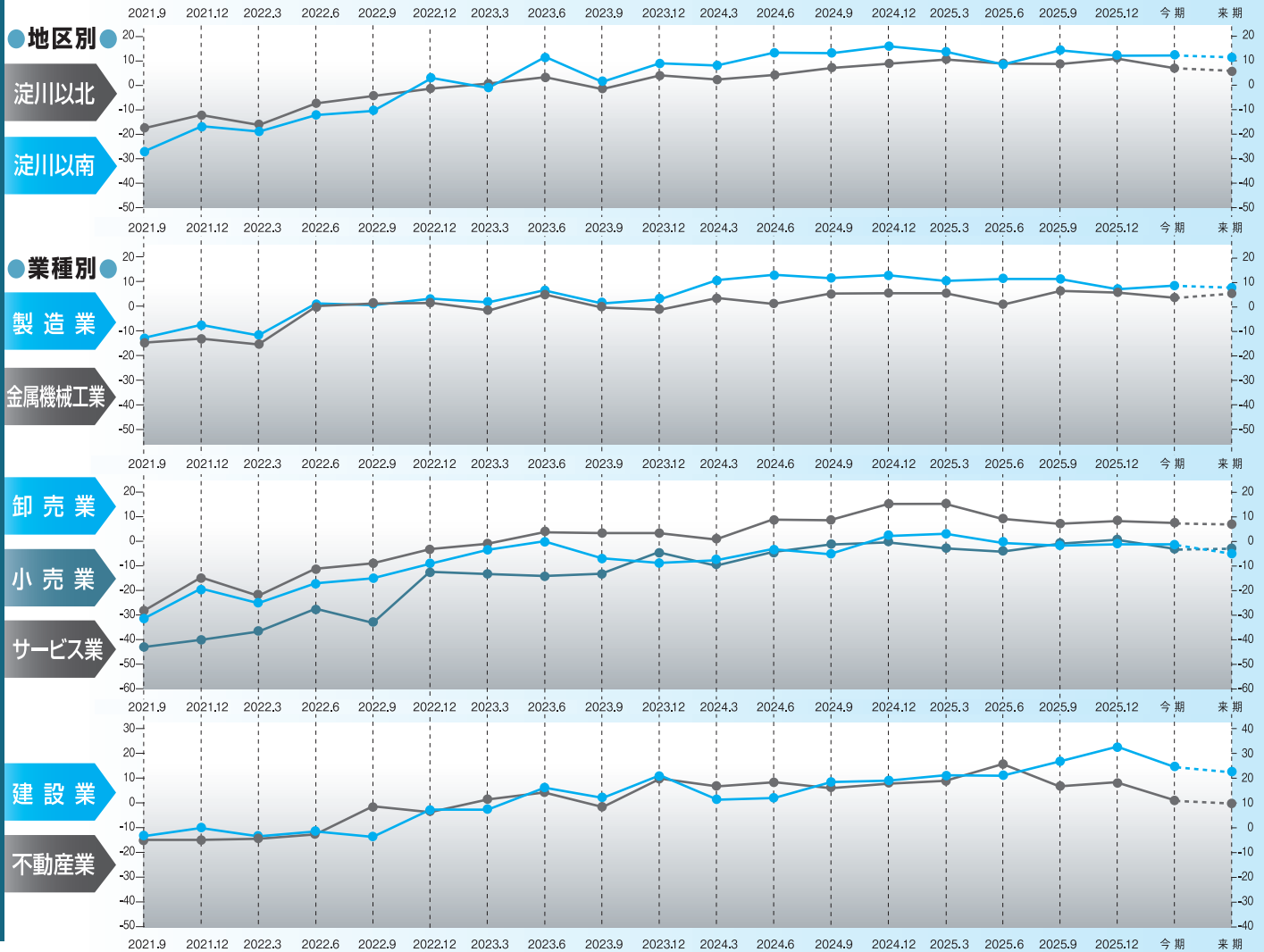
# Business Condition Report



この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫





## INDEX

- 地区別・業種別 業況判断DI 来期予想までの推移・目次……………1
- 調査概要……………2
- 全業種総合……………3・4
- 製造業……………5
- 金属機械工業……………6
- 卸売業……………7
- 小売業……………8
- サービス業……………9
- 建設業……………10
- 不動産業……………11
- 特別調査「日本・中国の現状について」……………12・13・14

**〈調査概要〉** 調査対象……………地元企業1,200社(有効回答1,200社)  
 調査時期……………2026年3月  
 調査対象期間…2026年1月～3月期 当期の実績(2025年10月～12月期との比較)  
 2026年4月～6月期 来期の見通し(2026年1月～3月期との比較)  
 調査方法……………当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査  
 分析方法……………DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例) 良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

DI = ① - ② = ▲10

●調査内容と注意点

- (1) 売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。
- (2) 業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業況	現状「良い」	現状「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人手	現状「過剰」	現状「不足」
借入の難易度	現状「容易」	現状「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

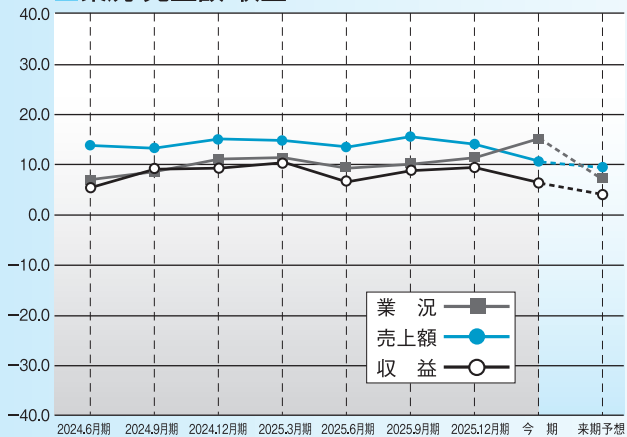
	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合計(構成比)	
製造業	28	59	47	22	21	17	6	200	16.7%
金属機械工業	64	53	29	22	19	7	6	200	16.7%
卸売業	49	32	23	8	5	2	1	120	10.0%
小売業	77	31	16	7	6	6	7	150	12.5%
サービス業	46	46	27	25	27	17	12	200	16.7%
建設業	49	68	49	17	9	3	5	200	16.7%
不動産業	80	36	7	2	2	1	2	130	10.8%
合計	393	325	198	103	89	53	39	1,200	100.0%
(構成比)	32.8%	27.1%	16.5%	8.6%	7.4%	4.4%	3.3%	100.0%	—

\*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北  
 淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南

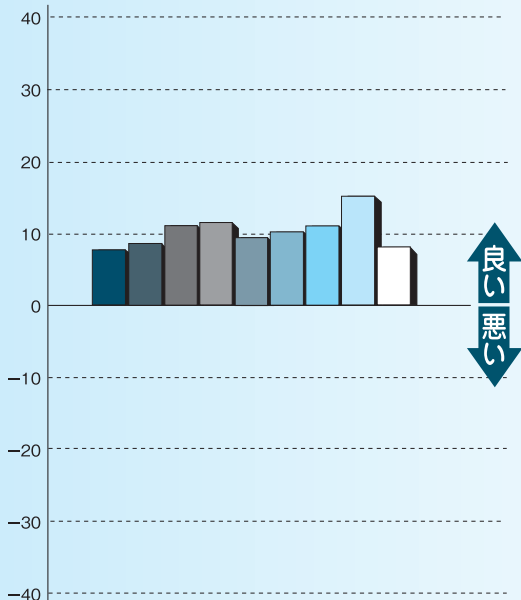
■ 業況・売上額・収益



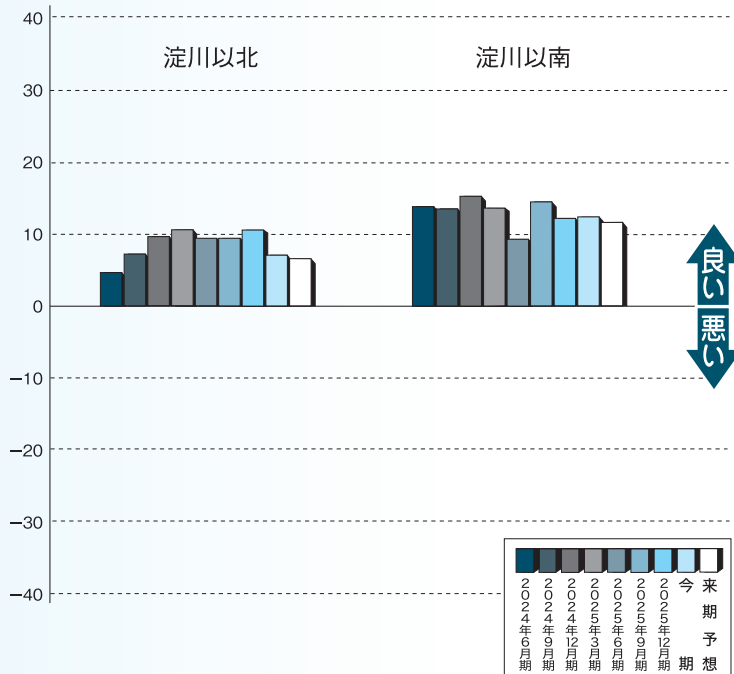
■ 全業種総合 DI値の推移

	2024.6月期	2024.9月期	2024.12月期	2025.3月期	2025.6月期	2025.9月期	2025.12月期	今期	来期予想
業況	7.2	8.6	11.0	11.3	9.4	10.0	10.8	15.5	7.5
売上額	14.1	13.5	15.1	14.9	13.1	15.5	13.9	10.5	9.8
受注残	9.5	13.7	13.5	12.7	9.8	11.0	13.3	10.7	10.3
施工高	24.0	23.5	20.5	27.0	18.0	24.5	33.5	26.5	25.0
収益	5.8	9.1	9.3	10.2	6.7	9.1	9.6	6.6	5.5
販売価格	31.4	27.7	30.8	32.3	30.2	28.7	29.8	24.2	25.1
原材料・仕入価格	45.8	40.8	42.5	42.7	40.3	37.2	39.7	37.3	34.7
在庫	1.7	-0.4	-0.8	0.4	-0.2	0.1	0.3	5.4	-0.7
資金繰り	0.2	-0.6	-0.1	0.3	0.5	1.3	0.6	5.7	1.9
従業員残業時間	6.9	6.3	5.7	6.7	4.8	5.9	4.8	7.2	4.3
従業員人手	-13.0	-10.2	-14.1	-12.7	-12.1	-12.6	-11.2	-8.8	-10.5
設備状況	-3.0	-1.4	-2.1	-2.0	-2.2	-2.0	-2.2	14.9	-1.4

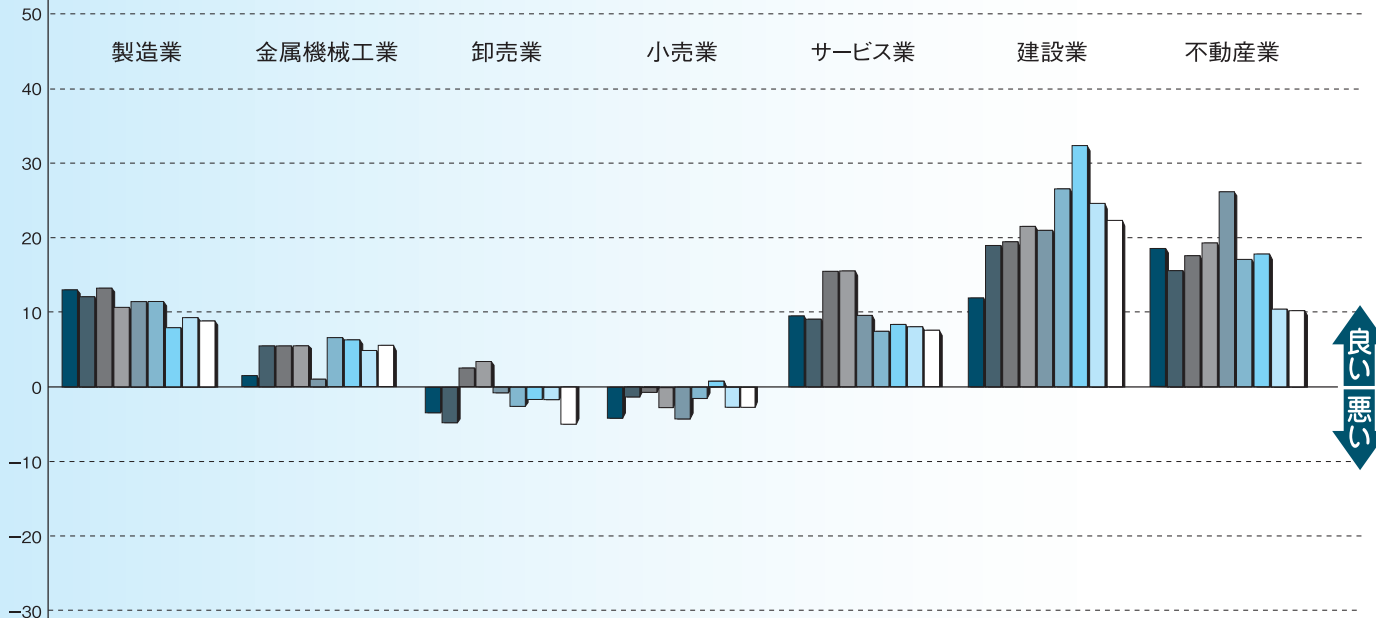
■ 全体業況判断DI



■ 地区別業況判断DI



■ 業種別業況判断DI



## 業況について

### 2026年1月～3月期 ～業況は前期比4.7ポイント増の改善～

2026年1月～3月期、全業種の業況判断(DI)は15.5(前期比4.7ポイント増)と改善となった。

来期予想の業況判断(7.5)は悪化の見通し。

### 《業種別》 ～製造業はわずかな改善、卸売業は横ばい、サービス業は概ね横ばい、

### 金属機械工業はわずかな悪化、小売業、不動産業、建設業とともに悪化～

業種別にみると、「製造業」は9.0(前期比1.5ポイント増)とわずかな改善。「卸売業」は▲1.7(前期比変動なし)と横ばい。

「サービス業」は7.5(前期比0.5ポイント減)の概ね横ばい。「金属機械工業」は4.5(同1.5ポイント減)とわずかな悪化。

「小売業」は▲2.7(同3.4ポイント減)、「不動産業」は10.8(同6.9ポイント減)、「建設業」は24.5(同8.0ポイント減)と悪化となった。

### ～淀川以北地域は概ね横ばい、淀川以南地域は改善～

地域別にみると、淀川以北地域の業況判断(DI)は6.7(前期比3.7ポイント減)は悪化、淀川以南地域は12.2(同0.1ポイント増)はほぼ横ばい。

淀川以北地域の業種別では、製造業(前期10.3→今期12.3)はわずかな改善、サービス業(同3.8→4.5)は概ね横ばい、

卸売業(同1.3→同0.0)は小幅な悪化。金属機械工業(同1.9→同0.0)、小売業(同▲0.9→同▲3.6)はわずかな悪化。

建設業(同30.9→同20.5)、不動産業(同20.8→同6.3)とともに大幅な悪化となった。

淀川以南地域の業況判断(DI)では、製造業(前期0.0→今期11.0)と大幅な改善。卸売業(同▲7.3→同▲2.5)と改善。

不動産業(同12.1→同6.3)は悪化。小売業(同5.7→同▲4.5)と大幅な悪化。

金属機械工業(同19.0→同2.7)、サービス業(同22.0→同3.9)、建設業(同40.0→同18.0)とともにかなり大幅な悪化となった。

来期の業況判断予想は、淀川以北地域(6.0)は概ね横ばい、淀川以南地域(11.8)は、ほぼ横ばいの見通し。

## 売上額・収益の動き

### ～売上額、収益とともに悪化～

売上額判断(DI)は10.5(前期比3.4ポイント減)、収益判断(DI)は6.6ポイント(同3.0ポイント減)とともに悪化となった。

来期予想の売上額判断(9.8)は概ね横ばい、収益判断(5.5)は小幅な悪化の見通し。

## 販売価格・原材料・仕入価格の動き

### ～販売価格は悪化、原材料(仕入)価格はわずかな改善～

販売価格判断(DI)は24.2(前期比5.7ポイント減)は悪化。原材料・仕入価格判断(DI)は37.3(同2.4ポイント減)はわずかな改善となった。

来期予想の販売価格判断(25.1)、原材料・仕入価格判断(34.7)とともに概ね横ばいの見通し。

## 資金繰り・雇用面の動き

### ～資金繰りは改善、人手はわずかな改善～

資金繰り判断(DI)は5.7(前期比5.1ポイント増)と改善。人手判断(DI)▲8.8(同2.4ポイント増)はわずかな改善。

人手判断の内訳は、不足とする企業の割合は前期12.4%→今期11.3%と小幅な低下。

人手過剰とする企業の割合は同1.3%→同0.8%と概ね横ばい。適正とした企業の割合は同86.3%→同87.8%とわずかな上昇となった。

来期予想の資金繰り判断(1.9)は悪化、人手判断(▲10.5)はわずかな悪化の見通し。

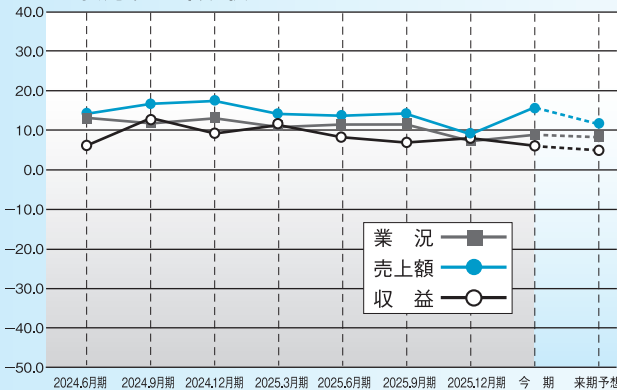
## 経営上の問題点

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	売上の停滞・減少 39.0%	原材料高 35.0%	同業者間の競争の激化 20.0%	人手不足 18.0%	問題なし 13.5%
金属機械工業	売上の停滞・減少 34.5%	原材料高 31.5%	同業者間の競争の激化 27.5%	人手不足 21.0%	問題なし 18.5%
卸売業	売上の停滞・減少 43.3%	利幅の縮小 25.0%	同業者間の競争の激化 22.5%	問題なし 17.5%	仕入先からの値上げ要請 12.5%
小売業	売上の停滞・減少 40.0%	同業者間の競争の激化 34.0%	利幅の縮小 20.7%	人手不足 16.7%	大型店との競争の激化 16.0%
サービス業	同業者間の競争の激化 41.0%	売上の停滞・減少 27.0%	人手不足 26.5%	人件費の増加 25.0%	材料価格の上昇 17.0%
建設業	人手不足 32.5%	同業者間の競争の激化 29.5%	材料価格の上昇 29.5%	売上の停滞・減少 20.5%	問題なし 18.5%
不動産業	商品物件の高騰 48.5%	商品物件の不足 40.8%	同業者間の競争の激化 36.9%	売上の停滞・減少 20.8%	利幅の縮小 20.8%

## 当面の重点経営施策

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	販路を広げる 65.5%	経費を削減する 48.5%	情報力を強化する 17.5%	特になし 14.5%	人材を確保する 14.0%
金属機械工業	販路を広げる 65.5%	経費を削減する 42.5%	特になし 19.0%	情報力を強化する 16.5%	人材を確保する 16.5%
卸売業	経費を削減する 20.8%	情報力を強化する 16.7%	販路を広げる 14.2%	特になし 10.8%	品揃えを充実する 8.3%
小売業	経費を削減する 54.0%	宣伝・広告を強化する 37.3%	品揃えを充実する 31.3%	売れ筋商品を取り扱う 21.3%	商店街事業を活性化させる 11.3%
サービス業	販路を広げる 47.0%	経費を削減する 44.0%	宣伝・広告を強化する 25.5%	人材を確保する 25.5%	特になし 17.5%
建設業	販路を広げる 48.0%	経費を削減する 42.5%	人材を確保する 30.0%	特になし 23.0%	情報力を強化する 18.0%
不動産業	情報力を強化する 62.3%	販路を広げる 37.7%	宣伝・広告を強化する 27.7%	経費を削減する 26.2%	特になし 10.0%

■業況・売上額・収益



■製造業 DI値の推移

	2024.6	2024.9	2024.12	2025.3	2025.6	2025.9	2025.12	今期	来期予想
業況	13.0	12.0	13.0	10.5	11.5	11.5	7.5	9.0	8.5
売上額	14.0	17.0	17.5	14.5	14.0	14.5	8.5	15.5	11.5
受注残	12.0	10.0	14.5	10.5	9.0	6.5	7.5	9.5	7.5
収益	6.5	13.0	9.5	11.0	8.5	7.0	8.0	6.0	5.5
販売価格	45.0	38.0	37.5	39.5	34.0	31.0	30.0	29.0	22.0
原材料価格	59.5	48.5	49.5	52.0	46.0	40.0	43.0	40.0	33.0
在庫	4.0	2.0	1.5	2.5	1.5	6.0	1.5	2.0	1.5
資金繰り	9.0	3.0	1.0	2.5	3.0	3.5	3.5	2.5	2.5
従業員残業時間	2.5	3.0	4.6	5.1	4.6	5.5	3.0	1.0	1.0
従業員人手	-14.2	-8.6	-10.7	-9.6	-14.2	-9.5	-9.0	-8.5	-8.5
設備状況	-4.1	-3.6	-4.6	-1.5	-4.6	-5.5	-2.0	-1.0	-0.5

■業況について

2026年1月～3月期 ～業況は前期比1.5ポイント増とわずかな改善～

2026年1月～3月期、製造業の業況判断(DI)は9.0(前期比1.5ポイント増)とわずかな改善。

最多納入先別にみる業況判断(DI)では、「大メーカー向け」(前期37.5→今期40.5)は改善となった。「中小メーカー・仲間業者向け」(同0.8→同3.3)とわずかな改善。

「問屋・商社向け」(同▲5.0→同▲5.3)とほぼ横ばいとなった。「小売・最終需要家向け」(同0.0→同▲11.8)と大幅な悪化となった。

来期予想の業況判断(8.5)は概ね横ばいの見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・仲間業者	小売・最終需要家
全体	200	19	42	122	17
良い～悪い	18	-1	17	4	-2
DI	9.0	-5.3	40.5	3.3	-11.8

■売上額・収益・受注残の動き

～売上額は改善、受注残はわずかな改善、収益はわずかな悪化～

売上額判断(DI)は15.5(前期比7.0ポイント増)は改善。受注残判断(DI)は、9.5(同2.0ポイント増)はわずかな改善、収益判断(DI)は、6.0(同2.0ポイント減)はわずかな悪化。

来期予想は、売上額判断(11.5)は悪化。受注残判断(7.5)わずかな悪化。収益判断(5.5)は概ね横ばいの見通し。

■販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は小幅な悪化、原材料価格は改善～

販売価格判断(DI)は29.0(前期比1.0ポイント減)と小幅な悪化。原材料価格判断(DI)は40.0(同3.0ポイント減)と改善となった。

来期予想の販売価格判断(22.0)は悪化。原材料価格判断(33.0)は改善の見通し。

■資金繰り・雇用面の動き

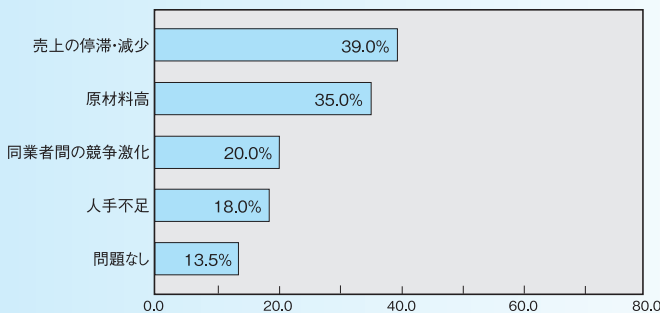
～資金繰りは小幅な悪化、人手については概ね横ばい～

資金繰り判断(DI)は2.5(前期比1.0ポイント減)は小幅な悪化。人手判断(DI)は▲8.5(同0.5ポイント増)は概ね横ばいとなった。

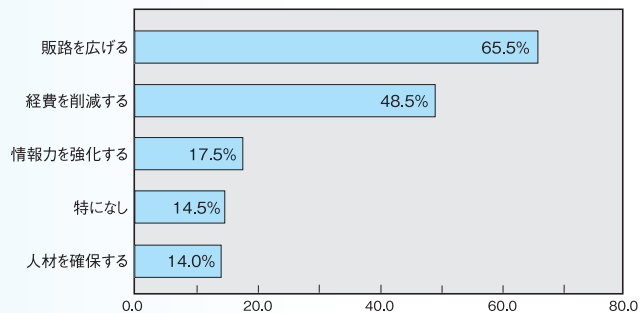
人手判断の内訳は、不足とした企業は前期11.0%→今期8.5%はわずかな低下、適正とした企業の割合は同87.0%→同91.5%は上昇した。人手過剰とした企業の割合は同2.0%→同0.0%とわずかな低下。

来期予想の資金繰り判断(2.5)、人手判断(▲8.5)とともに横ばいの見通し。

■経営上の問題点



■当面の重点経営施策

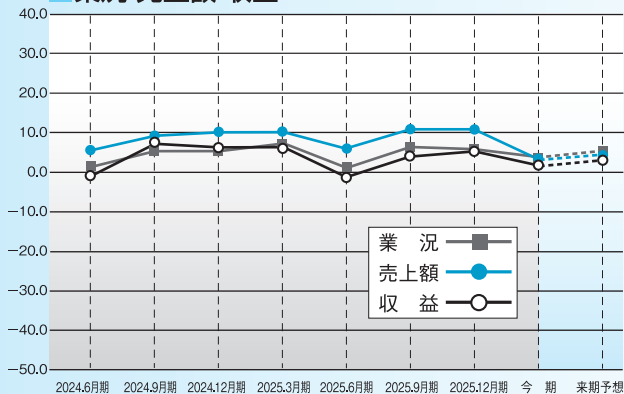


■企業のコメント



- ・受注安定し業況好調。資金繰り安定しており、資金調達不要。(精密機器企画・設計・販売)
- ・業況堅調推移。海外製品から日本製への変更打診あり、技術力定評あり。(建築用金物)
- ・大手からの受注安定しており、業況順調。電気回路業務の人材不足。(食品加工機械製造)
- ・競合も激しく商品開発今後も継続。為替レートが利益影響するため注視必要。(魔法瓶製品)
- ・前期比は受注残高減少傾向。売上、利益ともに減収減益で推移。(電子部品製造)
- ・減収減益、赤字決算見通し。従業員高齢化に伴い、受注こなすのに限界あり。(空調工事)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	2024.6	2024.9	2024.12	2025.3	2025.6	2025.9	2025.12	今期	来期予想
業況	1.5	5.5	5.5	7.5	1.0	6.5	6.0	4.5	5.5
売上額	5.5	9.0	10.0	10.0	6.0	10.5	10.5	4.0	5.0
受注残	2.5	9.5	7.5	10.5	5.0	7.0	8.5	3.5	6.0
収益	-1.5	7.5	6.5	6.5	-1.0	4.5	5.5	2.0	3.0
販売価格	27.5	22.5	23.5	25.5	18.5	19.0	20.5	22.5	20.5
原材料価格	45.5	36.5	39.0	38.5	31.5	33.0	35.5	39.5	35.0
在庫	1.0	0.5	1.0	2.0	2.5	2.0	5.5	2.0	1.0
資金繰り	4.0	4.5	3.5	1.0	-2.0	0.5	-2.0	1.0	2.0
従業員残業時間	0.0	3.5	2.0	4.0	1.0	5.0	-1.0	1.5	1.5
従業員人手	-12.0	-10.0	-17.5	-11.0	-12.5	-13.0	-12.0	-11.5	-12.0
設備状況	-5.5	-3.5	-3.5	-4.5	-2.5	-3.5	-5.0	-1.0	-1.5

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・仲間業者	小売・最終需要家
全体	200	9	55	129	7
良い～悪い	9	2	19	-11	-1
DI	4.5	22.2	34.5	-8.5	-14.3

業況について

2026年1月～3月期 ～業況は前期比1.5ポイント減とわずかな悪化～

2026年1月～3月期、金属機械工業の業況判断(DI)は4.5(前期比1.5ポイント減)とわずかな悪化。最多納入先別の業況判断(DI)は、「問屋・商社」(前期0.0→今期22.2)はかなり大幅な改善、「大メーカー」(同26.8→同34.5)、「小売・最終需要家向け」(同▲20.0→同▲14.3)とともに改善。「中小メーカー・仲間業者」(同▲1.5→同▲8.5)は悪化となった。

来期予想の業況判断(5.5)は小幅な改善の見通し。

売上額・収益・受注の動き

～売上額、受注残、収益とともに悪化～

売上額判断(DI)は4.0(前期比6.5ポイント減)、受注残判断(DI)は3.5(前期5.0ポイント減)、収益判断(DI)は2.0(前期比3.5ポイント減)とともに悪化となった。

来期予想の売上額判断(5.0)は小幅な改善、受注残判断(6.0)はわずかな改善。収益判断(3.0)は小幅な改善の見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格はわずかな改善、原材料価格は悪化～

販売価格判断(DI)は22.5(前期比2.0ポイント増)はわずかな改善。原材料価格判断(DI)39.5(同4.0ポイント増)は悪化となった。

来期予想の販売価格判断(20.5)はわずかな悪化、原材料価格判断(35.0)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

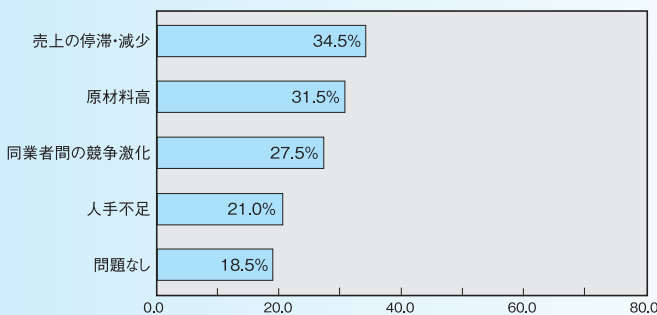
～資金繰りは改善、人手については概ね横ばい～

資金繰り判断(DI)は1.0(前期比3.0ポイント増)と改善。

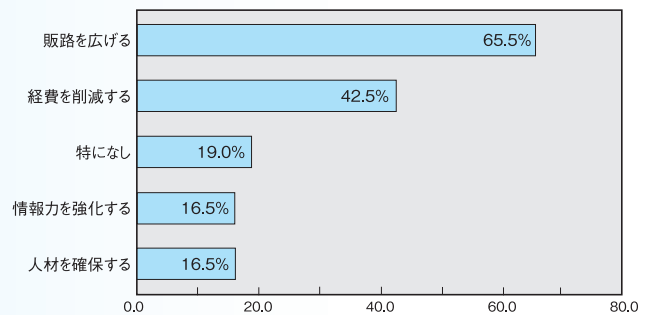
人手判断(DI)は▲11.5(同0.5ポイント増)と概ね横ばい。人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期85.0%→今期84.5%と概ね横ばい、人手過剰とした企業の割合は同1.5%→同2.0%と概ね横ばい、不足とした企業の割合は同13.5%→同13.5%と横ばい。

来期予想の資金繰り判断(2.0)は小幅な改善、人手判断(▲12.0)は概ね横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

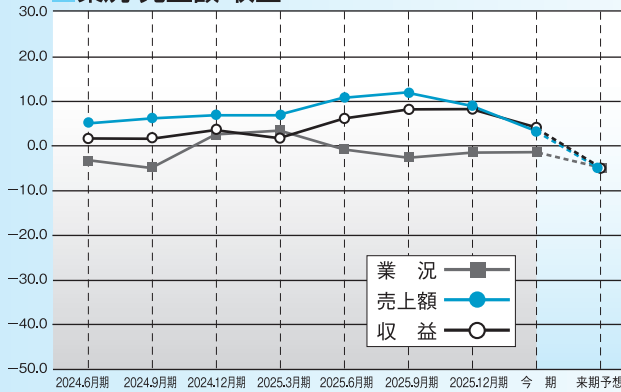


企業のコメント



- ・ 内需中心に業況安定。取引先との共同新規事業も順調で、見通し良好。(金網)
- ・ 代表自身、顧客工場へ出向いて積極的に作業など実施。顧客信頼関係構築も順調。(金属研磨)
- ・ 人手不足継続中。人材確保にも費用が必要なため、当面外注先にて対応。(電気機械製造)
- ・ 受注安定も諸経費増加傾向。利益確保には価格交渉不可欠。粘り強く対応中。(機械部品)
- ・ 半導体関連受注、熊本や海外へ流出しており、受注量減少。(金属部品加工)
- ・ 主要先の動き鈍く、売上低迷し、資金繰りも苦しい。(機械部品加工)

### 業況・売上額・収益



### 卸売業 DI値の推移

	2024.6月期	2024.9月期	2024.12月期	2025.3月期	2025.6月期	2025.9月期	2025.12月期	今期	来期予想
業況	-3.3	-5.0	2.5	3.3	-0.8	-2.5	-1.7	-1.7	-5.0
売上額	5.0	5.8	6.7	6.7	10.8	11.7	9.2	3.3	-2.5
収益	1.7	1.7	3.3	1.7	5.8	8.3	8.3	4.2	-0.8
販売価格	29.2	25.8	34.2	32.5	30.0	24.2	23.3	25.0	24.2
仕入価格	41.7	40.8	40.0	39.2	35.8	30.8	34.2	33.3	30.8
在庫	5.0	0.8	5.0	3.3	5.0	4.2	0.8	2.5	2.5
資金繰り	-6.7	-3.3	-7.5	-5.0	-3.3	-1.7	-3.3	1.7	2.5
従業員残業時間	8.3	5.8	4.2	4.2	0.8	6.7	3.3	1.7	0.8
従業員人手	-4.2	-6.7	-3.3	-4.2	-1.7	-8.3	-4.2	-2.5	-2.5
設備状況	-0.8	0.8	1.7	2.5	0.0	0.0	-2.5	0.0	-0.8

### ◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・ 中間業者	小売業者
全体	120	19	15	61	25
良い～悪い	-2	0	1	-1	-2
DI	-1.7	0.0	6.7	-1.6	-8.0

### 業況について

#### 2026年1月～3月期 ～業況は前期比変動と横ばい～

2026年1月～3月期、卸売業の業況判断(DI)は▲1.7(前期比変動なし)と横ばい。  
 最多納入先別の業況判断(DI)は、「問屋・商社」(前期▲14.3→今期0.0)は大幅な改善、  
 「中小メーカー・中間業者」(同▲6.3→同▲1.6)は改善。  
 「大メーカー」(同23.1→同6.7)、「小売業者」(同8.7→同▲8.0)とかなり大幅な悪化となった。  
 来期予想の業況判断(▲5.0)は悪化の見通し。

### 売上額・収益の動き

#### ～売上額、収益とともに悪化～

売上額判断(DI)は3.3(前期比5.8ポイント減)、収益判断(DI)は4.2(同4.1ポイント減)とともに悪化となった。  
 来期予想の売上額判断(▲2.5)、収益判断(▲0.8)とともに悪化の見通し。

### 販売価格・仕入価格の動き

#### ～販売価格はわずかな改善、仕入価格は概ね横ばい～

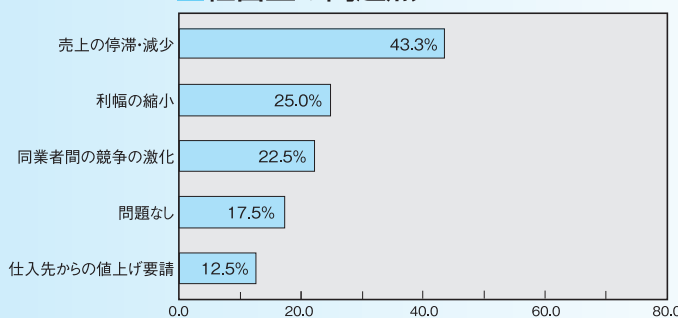
販売価格判断(DI)は25.0(前期比1.7ポイント増)はわずかな改善。仕入価格判断(DI)は33.3(同0.9ポイント減)は概ね横ばいとなった。  
 来期予想の販売価格判断(24.2)は概ね横ばい、仕入価格判断(30.8)はわずかな改善の見通し。

### 資金繰り・雇用面の動き

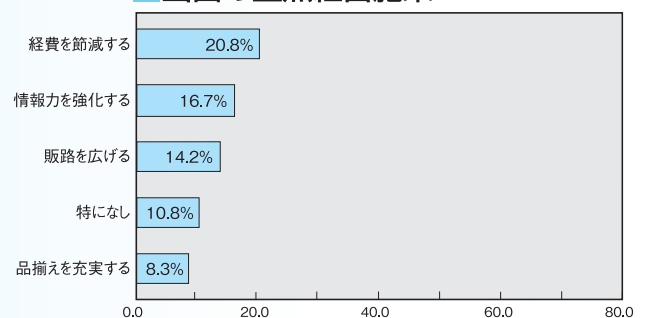
#### ～資金繰り改善、人手についてはわずかな改善～

資金繰り判断(DI)は1.7(前期比5.0ポイント増)は改善、人手判断(DI)は▲2.5(同1.7ポイント増)はわずかな改善となった。  
 人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期94.2%→今期94.2%と横ばい、人手過剰とした企業の割合は同0.8%→同1.7%と概ね横ばい。  
 不足とした企業の割合は同5.0%→同4.2%と概ね横ばいとなった。  
 来期予想の資金繰り判断(2.5)は概ね横ばい、人手判断(▲2.5)は横ばいの見通し。

### 経営上の問題点



### 当面の重点経営施策

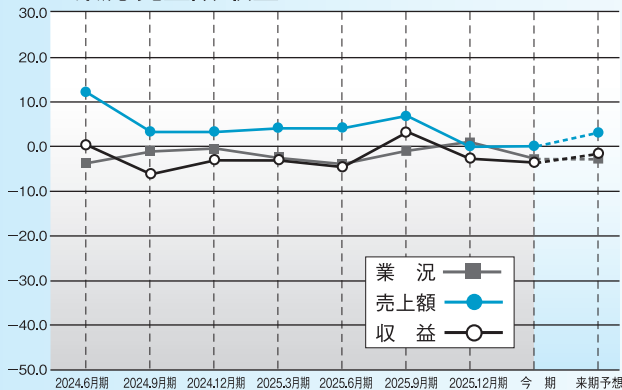


### 企業のコメント



- ・売上、利益大幅増加。今後、スポット大口受注増加が見込まれる。(LED)
- ・今期利益率高い受注があり、好調。安価海外製品仕入率増やし、利益率確保。(農業機械部品)
- ・価格転嫁は一部対応済み。人件費等の増加により利益は大きく変わらず。(食肉卸)
- ・ユーロ高で欧州輸入額増加。最低賃金上昇などもあり、利ざや減少。(チョコレート)
- ・本社不動産売却予定。(サングラス・メガネ)
- ・後継者不在。代表者高齢であり、規模縮小傾向。(ステンレス)

業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	2024.6	2024.9	2024.12	2025.3	2025.6	2025.9	2025.12	今期	来期予想
業況	-4.0	-1.3	-0.7	-2.7	-4.0	-1.3	0.7	-2.7	-2.7
売上額	12.0	2.7	2.7	4.0	4.0	7.3	0.0	0.0	3.3
収益	0.0	-6.7	-3.3	-3.3	-4.7	3.3	-3.3	-3.3	-2.0
販売価格	28.0	28.7	30.0	32.0	38.7	34.7	32.0	31.3	29.3
仕入価格	45.3	44.0	44.0	41.3	46.7	38.7	37.3	44.0	38.7
在庫	5.3	0.0	3.3	4.7	4.7	2.0	1.3	0.0	0.0
資金繰り	-14.0	-11.3	-3.3	-5.3	-7.3	-4.7	-4.7	-3.3	-3.3
従業員残業時間	2.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.7	0.0	1.6	3.1
従業員人手	-13.3	-6.7	-11.3	-10.0	-11.3	-14.0	-10.7	-10.2	-12.4
設備状況	-2.0	0.0	-0.7	-2.0	-2.7	1.3	0.0	-0.8	-1.6

業況について

2026年1月～3月期 ～業況は前期比3.3ポイント減の悪化～

2026年1月～3月期、小売業の業況判断(DI)は▲2.7(前期比3.3ポイント減)と悪化。店舗立地地域別の業況判断(DI)は、「駅周辺商店街」(前期▲1.9→今期0.0)とわずかな改善。「住宅地隣接商店街」(同▲5.2→同▲5.1)はほぼ横ばい。「その他」(同13.2→同▲2.8)はかなり大幅な悪化となった。来期予想の業況判断(▲2.7)は横ばいの見通し。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	その他
全体	150	55	59	36
良い～悪い	-4	0	-3	-1
DI	-2.7	0.0	-5.1	-2.8

売上額・収益の動き

～売上額、収益とともに横ばい～

売上額判断(DI)は0.0(前期変動なし)、収益判断(DI)は▲3.3(同変動なし)とともに横ばいとなった。来期予想の売上額判断(3.3)は改善、収益判断(▲2.0)は小幅な改善の見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は概ね横ばい、仕入価格は悪化～

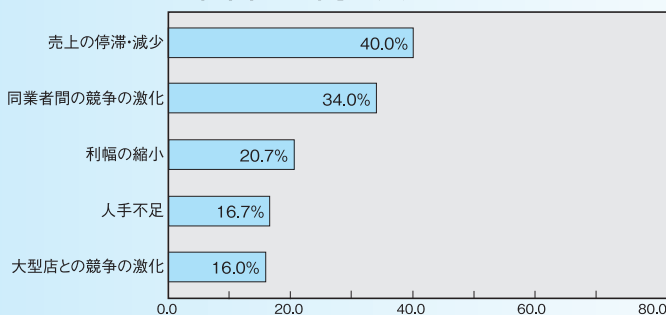
販売価格判断(DI)は31.3(前期比0.7ポイント減)は概ね横ばい。仕入価格判断(DI)は44.0(同6.7ポイント増)と悪化となった。来期予想の販売価格判断(29.3)はわずかな悪化。仕入価格判断(38.7)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

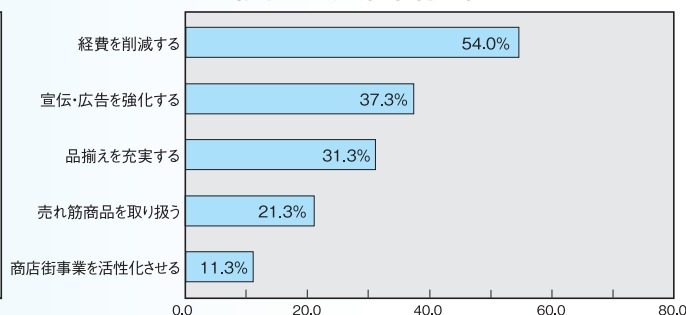
～資金繰りは小幅な改善、人手については概ね横ばい～

資金繰り判断(DI)は▲3.3(前期比1.3ポイント増)と小幅な改善。人手判断(DI)は▲10.2(同0.5ポイント増)と概ね横ばい。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期1.3%→今期1.6%とほぼ横ばい、不足とした企業の割合は同12.0%→同11.7%とほぼ横ばい、適正とした企業は同86.7%→同86.7%と横ばいとなった。来期予想の資金繰り判断(▲3.3)は横ばい、人手判断(▲12.4)はわずかな悪化の見通し。

経営上の問題点



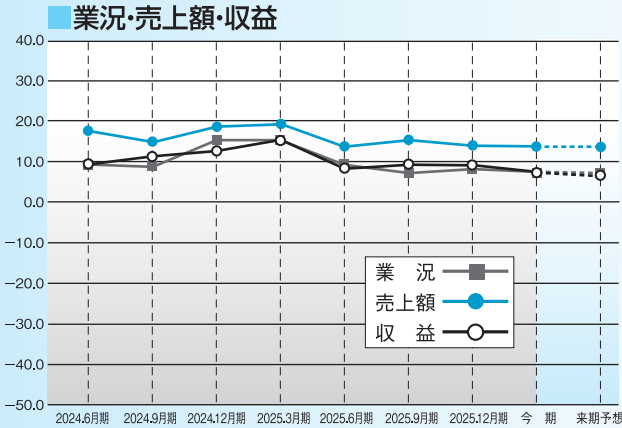
当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・大手との薄利多売競争から離脱。自社ブランド確立に注力。利益率大幅改善。(女性用アパレル)
- ・ネット販売増加傾向。売れ筋商品の在庫確保のため倉庫拡張検討中。(革製品販売)
- ・ネット販売好調。前年比15%増加。仕入値高騰し、今後売値へ転嫁を予定。(昆布・乾物・鯉節)
- ・ジェラート売上不振で売上低迷。ケーキ等は順調。販促方法見直し改善策が必要。(洋菓子)
- ・近隣スーパー価格動向を見ながら、値上げ実施。採算厳しく、赤字計上。(精肉)
- ・近隣スーパーに顧客流れており、厳しい状況継続中。(食料品)



### サービス業 DI値の推移

	2024.6月期	2024.9月期	2024.12月期	2025.3月期	2025.6月期	2025.9月期	2025.12月期	今期	来期予想
業況	9.5	9.0	15.5	15.5	9.5	7.0	8.0	7.5	7.0
売上額	17.5	15.0	18.5	19.0	14.0	15.5	14.5	14.0	14.0
収益	9.5	11.5	12.5	15.5	8.0	9.5	8.5	7.5	6.5
料金価格	22.0	18.0	22.5	26.0	20.0	23.5	25.0	26.5	22.5
材料価格	28.5	26.0	25.5	34.0	26.5	25.5	28.5	28.0	22.5
資金繰り	-1.5	-2.0	-3.0	-2.5	-2.5	0.0	0.5	0.0	0.0
従業員残業時間	6.0	4.5	4.0	3.0	1.0	4.5	3.5	6.0	5.5
従業員人手	-14.0	-8.0	-16.0	-17.0	-15.0	-12.5	-13.5	-12.0	-12.0
設備状況	-3.5	-1.5	-1.5	-3.0	-1.5	-2.5	-3.5	-4.0	-3.0

### 業況について

2026年1月～3月期 ～業況は前期比0.5ポイント減と概ね横ばい～

2026年1月～3月期、サービス業の業況判断(DI)は7.5(前期比0.5ポイント減)と概ね横ばい。  
来期予想の業況判断(7.0)は概ね横ばいの見通し。

### 売上額・収益の動き

～売上額は概ね横ばい、収益は小幅な悪化～

売上額判断(DI)は14.0(前期比0.5ポイント減)は概ね横ばい。収益判断(DI)は7.5(同1.0ポイント減)は小幅な悪化。  
来期予想の売上額判断(14.0)は横ばい、収益判断(6.5)は小幅な悪化の見通し。

### 料金価格・材料価格の動き

～料金価格はわずかな改善、材料価格は概ね横ばい～

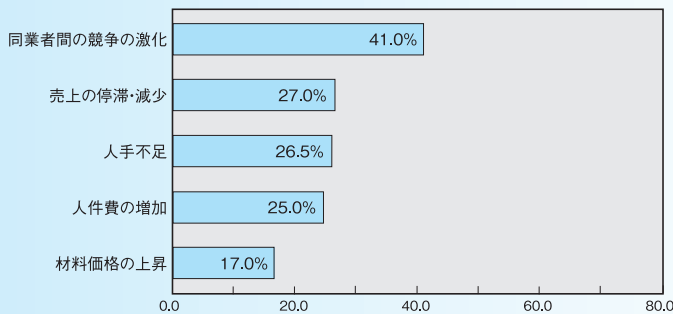
料金価格判断(DI)は26.5(前期比1.5ポイント増)とわずかな改善。材料価格判断(DI)は28.0(同0.5ポイント減)と概ね横ばい。  
来期予想の料金価格判断(22.5)は悪化、材料価格判断(22.5)と改善の見通し。

### 資金繰り・雇用面の動き

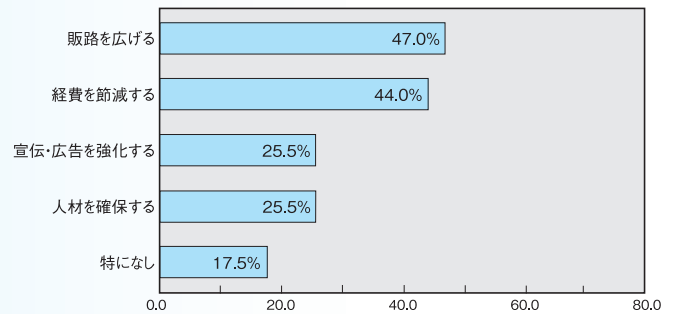
～資金繰りは概ね横ばい、人手についてはわずかな改善～

資金繰り判断(DI)は0.0(前期比0.5ポイント減)は概ね横ばい。人手判断(DI)は▲12.0(同1.5ポイント増)とわずかな改善。  
人手判断の内訳は、人手不足とした企業の割合は前期15.0%→今期12.5%とわずかな低下。  
人手過剰とした企業の割合は同1.5%→同0.5%と小幅な低下。適正とした企業の割合は同83.5%→同87.0%と上昇。  
来期予想の資金繰り判断(0.0)、人手判断(▲12.0)とともに悪化の見通し。

### 経営上の問題点



### 当面の重点経営施策

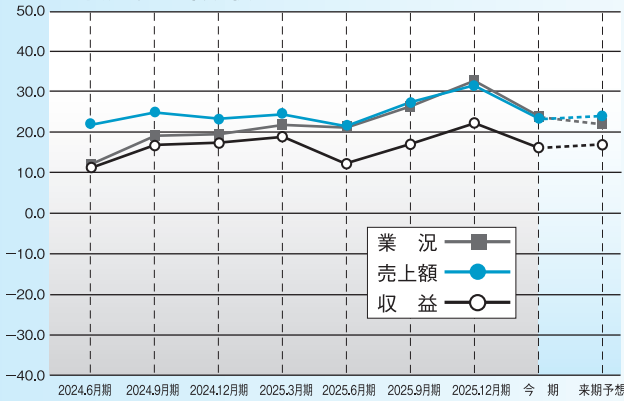


### 企業のコメント



- ・ 主要先へ値上げ対応済みで業況堅調推移。人手確保と教育を進め生産性高めていく。(梱包・運送倉庫)
- ・ 地元の固定顧客が多く、安定した売上を確保。(歯科)
- ・ 売上、利益とも良好傾向。燃料費などの値上がりで利益圧迫が予想される。(障害者就労支援)
- ・ 人員の確保と定着が課題となる。(介護、建設、不動産)
- ・ 車両確保が難航。新車納車にも時間がかかる。(冷蔵・冷凍運送)
- ・ 光熱費の高騰から利幅縮小となっている。(クリーニング業)

業況・売上額・収益



建設業 DI値の推移

	2024.6	2024.9	2024.12	2025.3	2025.6	2025.9	2025.12	今期	来期予想
業況	12.0	19.0	19.5	21.5	21.0	26.5	32.5	24.5	22.5
売上額	20.5	24.0	22.5	23.0	21.0	27.0	31.5	24.0	25.0
受注残	14.0	21.5	18.5	17.0	15.5	19.5	24.0	19.0	17.5
施工高	24.0	23.5	20.5	27.0	18.0	24.5	33.5	26.5	25.0
収益	11.0	17.0	17.5	18.5	12.0	17.0	22.0	15.5	17.0
請負価格	31.5	30.0	29.5	34.5	33.5	32.5	37.5	31.5	28.0
原材料・仕入価格	50.0	48.0	50.0	49.0	48.0	44.0	47.5	43.0	39.5
在庫	0.5	0.0	-1.0	1.0	0.5	3.0	1.0	0.5	0.5
資金繰り	3.0	2.5	5.0	7.0	8.0	9.0	8.0	7.5	7.5
従業員残業時間	10.0	9.0	7.5	9.0	4.0	5.5	6.5	4.5	4.0
従業員人手	-22.5	-23.0	-27.0	-25.0	-21.0	-22.0	-18.5	-17.5	-16.0
設備状況	-1.0	0.5	-2.0	-1.5	-1.0	0.0	0.0	0.0	0.0

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	200	40	65	79	16
良い～悪い	49	14	22	13	0
DI	24.5	35.0	33.8	16.5	0.0

業況について

2026年1月～3月期 ～業況は前期比8.0ポイント減の悪化～

2026年1月～3月期、建設業の業況判断(DI)は24.5(前期比8.0ポイント減)と悪化。

請負先別の業況(DI)は、「個人向け」(前期0.0→今期0.0)は横ばい、

「官公庁向け」(同42.5→同35.0)、「大企業向け」(同42.4→同33.8)、「中小業向け」(同25.3→同16.5)は悪化となった。

来期予想の業況判断(22.5)はわずかな悪化の見通し。

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、受注残、収益とともに悪化～

売上額判断(DI)は24.0(前期比7.5ポイント減)、受注残判断(DI)は19.0(前期比5.0ポイント減)、

収益判断(DI)は15.5(同6.5ポイント減)とともに悪化となった。

来期予想の売上額判断(25.0)は小幅な改善、受注残判断(17.5)はわずかな悪化、収益判断(17.0)はわずかな改善の見通し。

請負価格・原材料価格の動き

～請負価格は悪化、原材料価格は改善～

請負価格判断(DI)は31.5(前期比6.0ポイント減)は悪化、原材料価格判断(DI)は43.0(同4.5ポイント減)は改善となった。

来期予想の請負価格判断(28.0)は悪化、原材料価格判断(39.5)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは概ね横ばい、人手については小幅な改善～

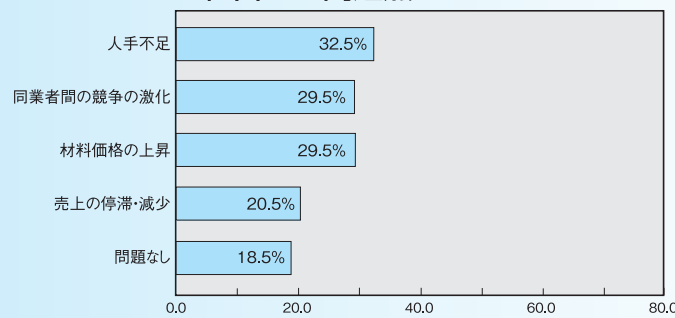
資金繰り判断(DI)は7.5(前期比0.5ポイント減)と概ね横ばい。人手判断(DI)は▲17.5(前期比1.0ポイント増)と小幅な改善。

人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期1.0%→今期0.5%と概ね横ばい。

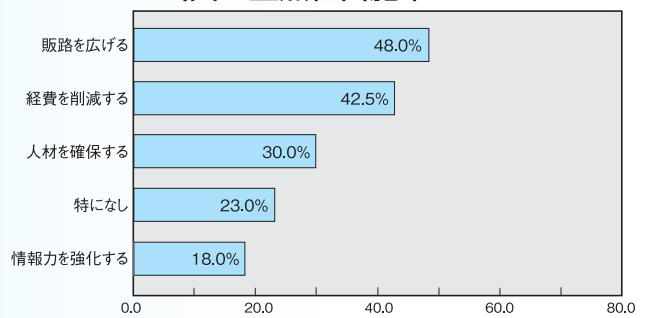
適正とした企業の割合は同79.5%→同81.5%とわずかな上昇。また、人手不足とした企業の割合は同19.5%→同18.0%はわずかな低下となった。

来期予想の資金繰り判断(7.5)と横ばい、人手判断(▲16.0)はわずかな改善の見通し。

経営上の問題点



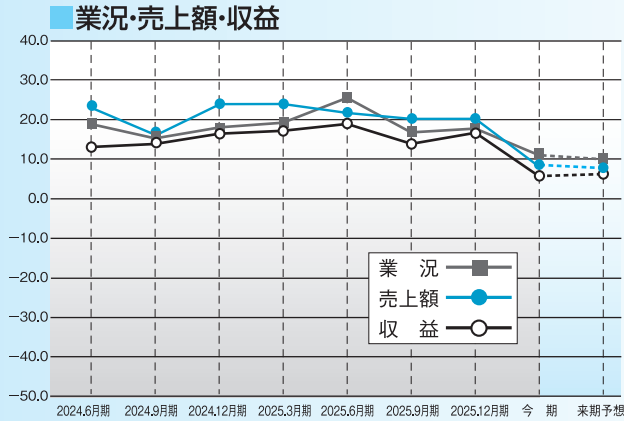
当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・大手からの受注増加傾向。来年秋頃まで受注確定。特に夏頃は多忙となる。(型枠工事)
- ・受注先増加。業績も好転しつつある。(建設工事)
- ・利益確保のため外注費削減に努める。(電気通信工事)
- ・材料費高騰に苦戦している。経費削減に力入れる。(建設工事)
- ・元請担当者が定時退社のため工期伸びるケースあり。経費増加し、利益圧迫している。(型枠工事)
- ・受注減少しており、獲得している案件も金額が小さい。(土木解体)



### 不動産業 DI値の推移

	2024.6	2024.9	2024.12	2025.3	2025.6	2025.9	2025.12	今期	来期予想
業況	18.5	15.4	17.7	19.2	26.2	16.9	17.7	10.8	10.0
売上額	23.1	16.2	24.6	24.6	21.5	20.0	20.0	8.5	7.7
収益	13.1	14.6	16.2	16.9	19.2	13.8	16.9	5.4	6.2
販売価格	36.9	31.5	43.8	38.5	43.1	39.2	43.1	33.8	30.0
仕入価格	49.2	43.1	52.3	43.1	51.5	50.8	53.8	47.7	40.8
在庫	-6.2	-7.7	-16.9	-13.8	-18.5	-22.3	-12.3	-12.3	-16.9
資金繰り	1.5	-1.5	0.0	1.5	6.2	-0.8	-1.5	-0.8	0.8
従業員残業時間	2.3	2.3	2.3	3.1	3.8	-2.3	0.0	2.3	1.5
従業員人手	-4.6	-3.8	-4.6	-5.4	-0.8	-4.6	-5.4	-6.2	-6.2

### 業況について

#### 2026年1月～3月期 ～業況は前期比6.9ポイント減の悪化～

2026年1月～3月期、不動産業の業況判断(DI)は10.8(前期比6.9ポイント減)と悪化。  
業種内容別業況では、「賃貸」(前期10.7→今期11.1)はほぼ横ばい、「仲介管理」(同13.0→同9.1)は悪化、「建売」(同21.5→同10.1)と大幅な悪化。  
来期予想の業況判断(10.0)は概ね横ばいの見通し。

◎業種内容別業況について(当期)

	全 体	賃 貸	建 売	仲介管理
全 体	128	27	79	22
良い～悪い	13	3	8	2
D I	10.2	11.1	10.1	9.1

### 売上額・収益の動き

#### ～売上額、収益とともに大幅な悪化～

売上額判断(DI)は8.5(前期比11.5ポイント減)、収益判断(DI)は5.4(同11.5ポイント減)とともに大幅な悪化となった。  
来期予想の売上額判断(7.7)、収益判断(6.2)とともに概ね横ばいの見通し。

### 販売価格・仕入価格の動き

#### ～販売価格は悪化、仕入価格は改善～

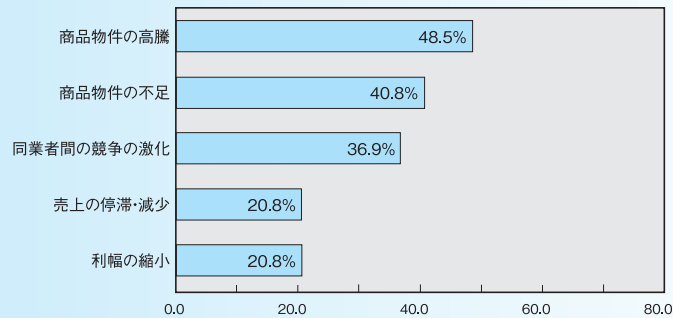
販売価格判断(DI)は33.8(前期比9.2ポイント減)と悪化、仕入価格判断(DI)は47.7(同6.2ポイント減)と改善となった。  
来期予想の販売価格判断(30.0)は悪化、仕入価格判断(40.8)は改善の見通し。

### 資金繰り・雇用面の動き

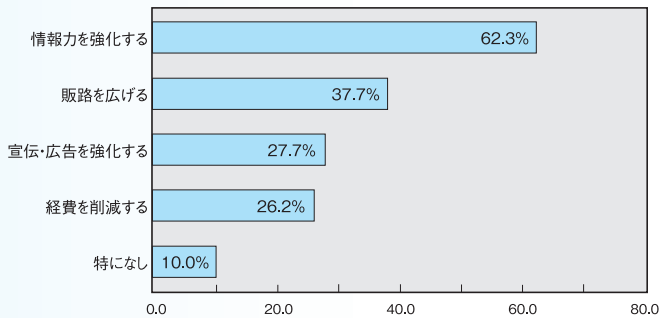
#### ～資金繰り、人手についてはともに概ね横ばい～

資金繰り判断(DI)は▲0.8(前期比0.7ポイント増)と概ね横ばい。  
人手判断(DI)は▲6.2(前期比0.8ポイント減)と概ね横ばい。  
人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.0%→今期0.0%と横ばい。適正とした企業の割合は同94.6%→同93.8%と概ね横ばい。  
人手不足とした企業の割合は同5.4%→同6.2%と概ね横ばいとなった。  
来期予想の資金繰り判断は(0.8)はわずかな改善、人手判断は(▲6.2)は横ばいの見通し。

### 経営上の問題点



### 当面の重点経営施策



### 企業のコメント



- 所有物件の周辺環境良化により価値向上。入居者退去後分譲販売検討中。(不動産)
- 販売は依然好調。在庫が少し不足。(不動産売買)
- まとまった用地なく、小口での案件が多い。価格も高騰。(不動産)
- 家賃値上困難であり、経費削減が課題。(不動産賃貸)
- 不動産価格高騰により、仲介件数減少傾向。(不動産)
- 不動産仕入コスト高による仕入難継続中。(不動産)

今回の北おおさか信金景気動向特別調査は「日本・中国の現状について」をテーマにアンケート調査を行いました。調査期間は2026年3月2日～6日。調査対象は北大阪を中心とする地元企業1,200社で、有効回答は1,200社(有効回答率 100.0%)。

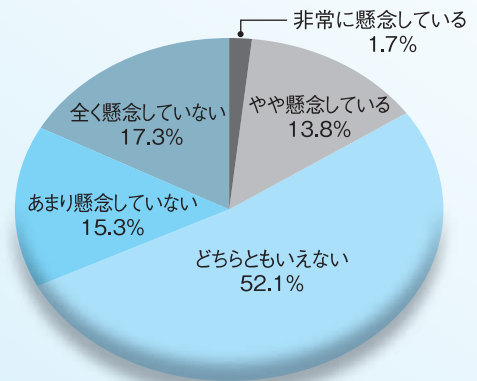


## 日本と中国の関係で、 貴社の事業に与える影響についてどの程度懸念していますか。

～「どちらともいえない」52.1%、  
「全く懸念していない」17.3%、  
「あまり懸念していない」15.3%～

「日本・中国の現状」について聞いたところ、「どちらともいえない」と回答した企業割合は全体で52.1%と5割を超えた(業種別では、金属機械工業、不動産業が57.0%と高く、卸売業が40.8%と低い)。  
「全く懸念していない」と回答した企業割合は全体で17.3%(業種別では、サービス業が28.0%と高く、製造業が8.5%と低い)。  
「あまり懸念していない」と回答した企業割合は全体で15.3%(業種別では、不動産業が22.3%と高く、小売業が10.0%と低い)。

日本と中国の関係で、貴社の事業に与える影響についてどの程度懸念していますか。



### 業種 × 日本と中国の関係が懸念されていますが、貴社の事業に与える影響についてどの程度懸念していますか。

割合	回答	業種							
		製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	
1.7%	非常に懸念している	1.5%	0.5%	7.5%	2.0%	1.5%	0.0%	0.8%	
13.8%	やや懸念している	20.5%	20.5%	22.5%	13.3%	6.0%	6.5%	8.5%	
52.1%	どちらともいえない	56.5%	57.0%	40.8%	56.0%	45.5%	57.0%	46.2%	
15.3%	あまり懸念していない	13.0%	10.5%	17.5%	10.0%	19.0%	16.5%	22.3%	
17.3%	全く懸念していない	8.5%	11.5%	11.7%	18.7%	28.0%	20.0%	22.3%	

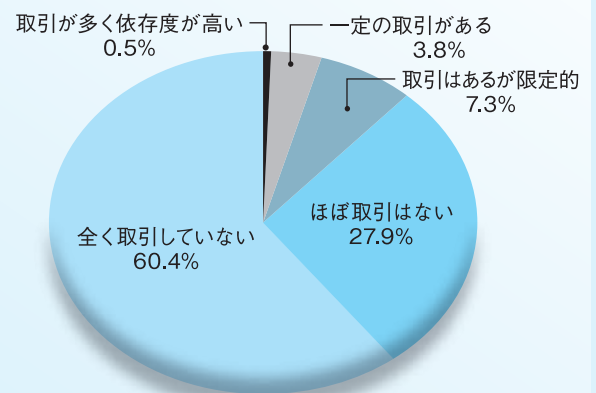


## 貴社の中国との取引関係における現状を教えてください。

～「全く取引していない」60.4%、  
「ほぼ取引はない」27.9%、  
「取引はあるが限定的」7.3%～

「中国との取引関係の現状」について聞いたところ、「全く取引していない」と回答した企業割合は、60.4%と6割を超えた(業種別では、不動産業が75.4%と高く、卸売業が45.0%と低い)。  
「ほぼ取引はない」と回答した企業割合は27.9%となった(業種別では、金属機械工業が38.0%と高く、不動産業が18.5%と低い)。  
「取引はあるが限定的」と回答した企業割合は7.3%となった(業種別では、卸売業が13.3%と高く、建設業が2.5%と低い)。

貴社の中国との取引関係における現状を教えてください。



### 業種 × 貴社の中国との取引関係における現状を教えてください。

割合	回答	業種							
		製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	
0.5%	取引が多く依存度が高い	0.5%	0.5%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
3.8%	一定の取引がある	6.0%	3.5%	14.2%	4.0%	1.0%	1.0%	0.0%	
7.3%	取引はあるが限定的	9.5%	9.5%	13.3%	9.3%	3.5%	2.5%	6.2%	
27.9%	ほぼ取引はない	36.5%	38.0%	24.2%	22.0%	22.5%	27.5%	18.5%	
60.4%	全く取引していない	47.5%	48.5%	45.0%	64.7%	73.0%	69.0%	75.4%	

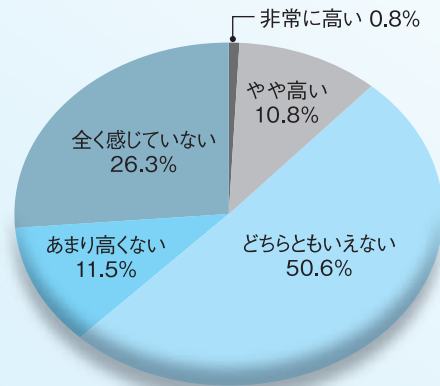


## 中国からの原材料・部品調達などにおける リスクをどの程度感じていますか。

～「どちらともいえない」50.6%、  
「全く感じていない」26.3%、  
「あまり高くない」11.5%～

「原材料・部品調達などにおけるリスクをどの程度感じているか」について聞いたところ、「どちらともいえない」と回答した企業割合は50.6%となった（業種別では、金属機械工業が59.5%と高く、サービス業が41.5%と低い）。「全く感じていない」と回答した企業割合は26.3%となった（業種別では、サービス業が41.0%と高く、卸売業が15.8%と低い）。「あまり高くない」と回答した企業割合は11.5%となった（業種別では、小売業が12.7%と高く、金属機械工業が10.0%と低い）。

中国からの原材料・部品調達などにおける  
リスクをどの程度感じていますか。



### 業種 × 中国からの原材料・部品調達などにおけるリスクをどの程度感じていますか。

割合	回答	業種								
		製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業		
0.8%	非常に高い	2.5%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%		
10.8%	やや高い	12.5%	13.0%	23.3%	10.7%	6.0%	7.5%	5.4%		
50.6%	どちらともいえない	55.5%	59.5%	47.5%	52.7%	41.5%	50.5%	43.8%		
11.5%	あまり高くない	12.5%	10.0%	10.8%	12.7%	11.5%	11.0%	12.3%		
26.3%	全く感じていない	17.0%	17.5%	15.8%	24.0%	41.0%	31.0%	36.9%		

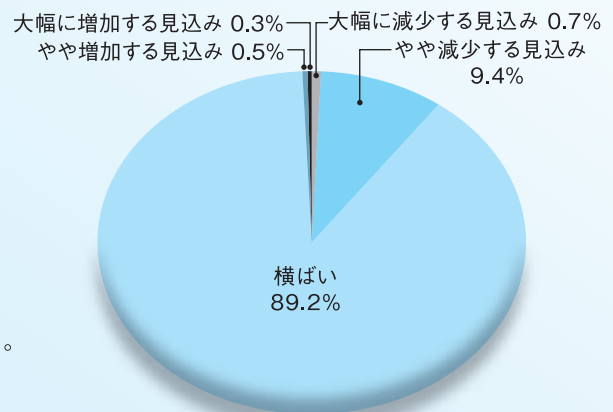


## 中国向け輸出や EC サイトにおける 今後の見通しについてはどのように考えていますか。

～「横ばい」89.2%、  
「やや減少する見込み」9.4%、  
「大幅に減少する見込み」0.7%～

「中国向け輸出やECサイトにおける今後の見通し」について聞いたところ、「横ばい」と回答した企業割合は89.2%と最も多かった（業種別では、建設業が94.0%と高く、卸売業が82.5%と低い）。「やや減少する見込み」と回答した企業割合は9.4%となった（業種別では、卸売業が17.5%と高く、小売業が5.3%と低い）。「大幅に減少する見込み」と回答した企業割合は0.7%となった（業種別では、製造業が1.5%と高く、金属機械工業、卸売業が0.0%と低い）。

中国向け輸出や EC サイトにおける  
今後の見通しについてはどのように考えていますか。



### 業種 × 中国向け輸出やECサイトにおける今後の見通しについてはどのように考えていますか。

割合	回答	業種								
		製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業		
0.7%	大幅に減少する見込み	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%	1.0%	0.5%	0.8%		
9.4%	やや減少する見込み	8.5%	13.0%	17.5%	5.3%	8.5%	5.5%	10.0%		
89.2%	横ばい	89.5%	85.0%	82.5%	92.7%	89.5%	94.0%	89.2%		
0.5%	やや増加する見込み	0.5%	2.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%		
0.3%	大幅に増加する見込み	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.5%	0.0%	0.0%		

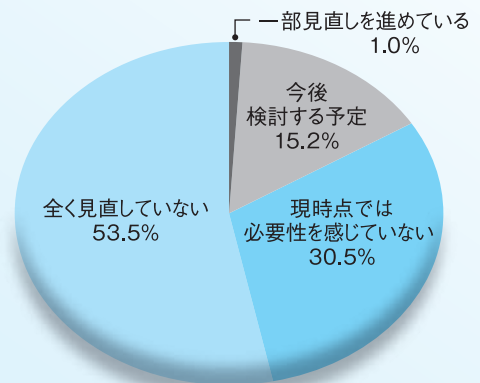


## 中国リスクを踏まえたサプライチェーンの見直しについて。

～「全く見直していない」53.3%、  
「現時点では必要性を感じない」30.5%、  
「今後検討する予定」15.2%～

「中国リスクを踏まえたサプライチェーンの見直し」について聞いたところ、  
「全く見直していない」と回答した企業割合は53.3%となった  
(業種別では、不動産業が67.7%と高く、製造業が37.5%と低い)。  
「現時点では必要性を感じない」と回答した企業割合は30.5%となった  
(業種別では、金属機械工業が40.5%と高く、不動産業が23.1%と低い)。  
「今後検討する予定」と回答した企業割合は15.2%となった  
(業種別では、卸売業が28.3%と高く、不動産業が9.2%と低い)。

中国リスクを踏まえたサプライチェーンの見直しについて。



### 業種 × 中国リスクを踏まえたサプライチェーンの見直しについて、現状の状況を教えてください。

割合	回答	業種								
		製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業		
0.0%	すでに大幅な見直し済み	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
1.0%	一部見直しを進めている	2.0%	2.5%	1.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%		
15.2%	今後検討する予定	20.5%	15.5%	28.3%	16.0%	10.5%	9.5%	9.2%		
30.5%	現時点では必要性を感じていない	40.0%	40.5%	24.2%	24.0%	23.5%	31.5%	23.1%		
53.5%	全く見直していない	37.5%	41.5%	45.8%	59.3%	66.0%	59.0%	67.7%		

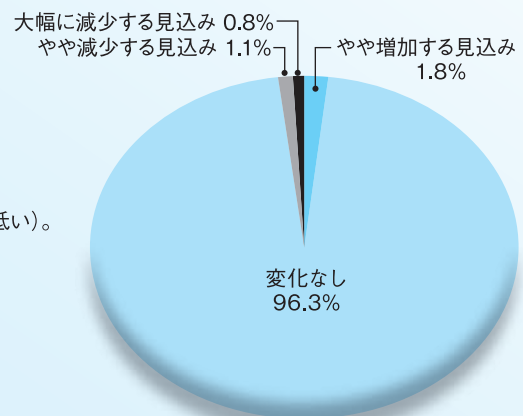


## 中国リスクの高まりに伴い、資金需要に変化はありますか。

～「変化なし」96.3%、  
「やや増加する見込み」1.8%、  
「やや減少する見込み」1.1%～

「中国リスクの高まりに伴い、資金需要の変化」について聞いたところ、  
「変化なし」と回答した企業割合は、96.3%となった  
(業種別では、小売業が98.7%と高く、製造業、金属機械工業が94.0%と低い)。  
「やや増加する見込み」と回答した企業割合は1.8%となった  
(業種別では、卸売業が4.2%と高く、不動産業が0.0%と低い)。  
「やや減少する見込み」と回答した企業割合は1.1%となった  
(業種別では、金属機械工業が2.5%と高く、小売業が0.0%と低い)。

中国リスクの高まりに伴い、資金需要に変化はありますか。



### 業種 × 中国リスクの高まりに伴い、資金需要に変化はありますか。

割合	回答	業種								
		製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業		
0.0%	大幅に増加する見込み	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
1.8%	やや増加する見込み	4.0%	2.0%	4.2%	0.7%	1.0%	0.5%	0.0%		
96.3%	変化なし	94.0%	94.0%	95.0%	98.7%	98.0%	97.5%	97.7%		
1.1%	やや減少する見込み	1.0%	2.5%	0.8%	0.0%	0.5%	1.0%	1.5%		
0.8%	大幅に減少する見込み	1.0%	1.5%	0.0%	0.7%	0.5%	1.0%	0.8%		

# 地域密着を信条とした65か店のネットワーク

## 店舗のご案内

北おおさか信用金庫 店舗配置図



(2026年4月現在)

**店外ATM**

- ◆ 吹田市水道部出張所
- ◆ 吹田市役所出張所
- ◆ イズミヤ千里丘店出張所
- ◆ アクトアモーレ出張所
- ◆ 関西スーパー西冠店出張所

- ◆ サバイ出張所
- ◆ マルヤス宮田店出張所
- ◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所
- ◆ 小曽根出張所
- ◆ 三国商店街出張所

- ◆ 神崎川駅前出張所
- ◆ 毛馬出張所
- ◆ 大池出張所
- ◆ 庄内栄町出張所
- ◆ 相川出張所

- ◆ 塚本駅前出張所
- ◆ 江口出張所
- ◆ 上牧出張所
- ◆ 香里出張所
- ◆ JR吹田駅前出張所

■ 店舗 ◆ 店外ATM

**営業地域(地区別)** 大阪府: 大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四條畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡  
 兵庫県: 尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡  
 京都府: 向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 2026年4月30日  
 発行 北おおさか信用金庫 総合企画部  
 住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32  
 電話 072-623-4981(代)  
 ホームページ <https://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>  
 編集 株式会社 きたしん総合研究所

